

特開平5-89324

(43) 公開日 平成5年(1993)4月9日

(51) Int. Cl. <sup>3</sup>	識別記号	庁内整理番号	P I	技術表示箇所
G 0 7 D 9/00	4 6 1 A	8513-3E		
G 0 6 F 15/30	3 3 0	6794-6L		
G 0 7 F 7/12		7130-3E	G 0 7 F 7/03	C

審査請求 未請求 請求項の数1(全3頁)

(21) 出願番号 特願平3-276143

(22) 出願日 平成3年(1991)9月30日

(71) 出願人 000232047

日本電気エンジニアリング株式会社  
東京都港区西新橋3丁目20番4号

(72) 発明者 ▲高▼根 弘行

東京都港区西新橋3丁目20番4号 日本電  
気エンジニアリング株式会社内

(74) 代理人 弁理士 山下 義平

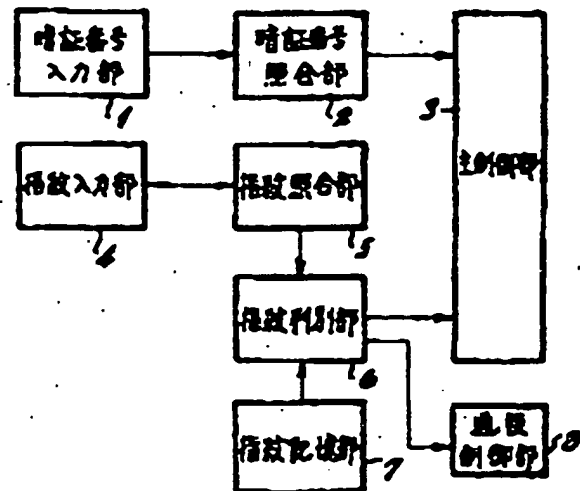
(54) 【発明の名称】 現金自動取引機

(57) 【要約】

【目的】 照合方式を指紋で行うことにより指名手配者または行方不明者などを捜し出すといった警察への手助けができる。

【構成】 暗証番号入力部1と暗証番号が正しいかどうかの判別を行う暗証番号照合部2と、指紋入力部4との指紋が正しいかどうかの判別を行う指紋照合部5と、指紋が指名手配者または行方不明者のものかどうかの判別を行う指紋判別部6と、指名手配者または行方不明者の指紋データが記憶されている指紋記憶部7と、指名手配者または行方不明者の指紋と判明した場合に係員に知らせるための通報制御部8と主制御部3より構成されている。

【効果】 指名手配者または行方不明者などを捜し出すことができる。また、暗証番号入力をするかわりに指紋を入力するだけなので、手間が省けるといった効果がある。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】現金自動取引機において、

カードまたは通帳が顧客本人所有のものであるかの照合方式を暗証番号入力方式で行えと共に、指紋による照合方式を用いて特定の指紋データの判別を行う指紋判別部と、その判別結果の通報制御部とを備えることを特徴とする現金自動取引機。

【発明の簡単な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、現金自動取引機に関し、特に金融機関用端末装置として適当な現金自動取引機に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の現金自動取引機は、カードまたは通帳が顧客本人所有のものであるかの照合方式として暗証番号を入力する方式をとっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】カードまたは通帳が顧客本人所有のものであるかの照合方式として暗証番号を入力する方式をとっていた為に入力する手間がかかってしまったり、また、暗証番号を忘れてしまったりといった問題点があった。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明の現金自動取引機は、カードまたは通帳が顧客本人所有のものであるかの照合方式を暗証番号入力方式で行えと共に、指紋による照合方式を用いて特定の指紋データの判別を行う指紋判別部と、その判別結果の通報制御部とを備えている。

【0005】

【実施例】次に本発明の一実施例について図面を参照して説明する。

【0006】図1は本発明の一実施例を示す構成図であり、図2はその外観図である。

【0007】暗証番号入力部1と暗証番号が正しいかどうかの判別を行う暗証番号照合部2と、指紋入力部4と指紋が正しいかどうかの判別を行う指紋照合部5と、指紋が例えば指名手配者または行方不明者などの特定の指紋データの物かどうかの判別を行う指紋判別部6と特定の指紋データが記憶されている指紋記憶部7と特定の指紋と判別した場合に係員に知らせるための通報制御部8と主制御部3とを備えている。

【0008】顧客がカード出入口部10または通帳出入口部11にカードまたは通帳を入れる。次にまず1つの照合方式として暗証番号入力部1に暗証番号を入力し、暗証番号照合部2でカードまたは通帳が顧客本人所有の

ものであるかを照合する。そして照合成立すると次の作業に進む情報が主制御部3に送られる。ここまでは従来で行われていた照合方式と同様である。本発明による2つ目の照合方式は指紋入力部4に指紋を入力し、指紋照合部5でカードまたは通帳が顧客本人所有のものであるかを照合する。

【0009】前記の指紋照合を行ったと同時に指紋判別部6で指紋記憶部7と指紋照合部5の指紋データを比較し、指紋記憶部7に記憶されている特定の指紋データとの合致の判別を常に行う。

【0010】前記の指紋判別の結果、例えば指名手配者または行方不明者の指紋と判別した場合は、通報制御部8によりまずカード出入口部10または通帳出入口部11にカードまたは通帳が取り込まれたままで休止状態となり、係員に通報データが送られる。これにより、係員がすぐに現場にかけつけることができる。

【0011】

【発明の効果】以上説明したように、本発明の現金自動取引機は、カードまたは通帳が顧客本人所有のものであるかの照合方式を暗証番号入力方式で行えと共に、指紋による照合方式でも行えるようにしたことにより、また、暗証番号を忘れても、指紋さえ入力できれば良いといった効果を有する。また例えば指名手配者または行方不明者などといった特定の指紋データの判別と通報を行うことにより、警察への手助けとなる指名手配者または行方不明者などを捜し出すことができるといった効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例の構成図である。

【図2】本発明の一実施例の外観図である。

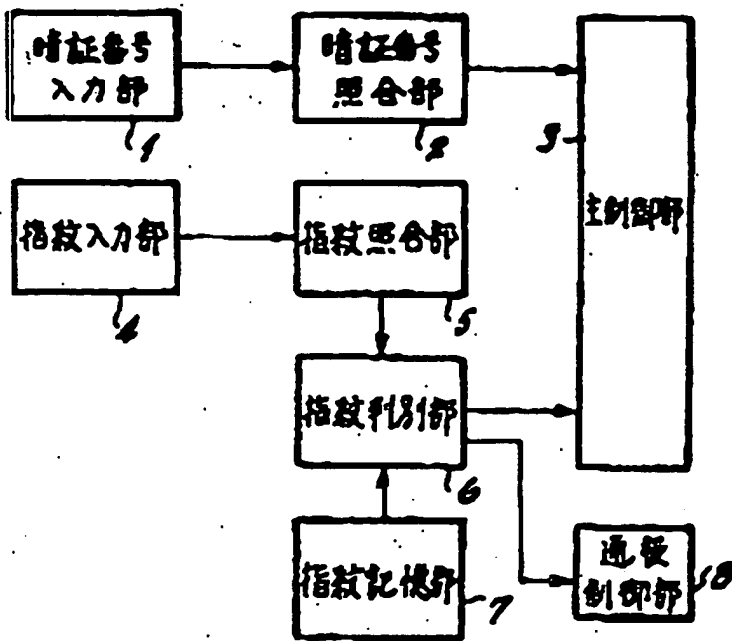
【図3】従来の一実施例の構成図である。

【図4】従来の外観図である。

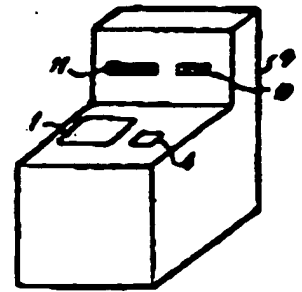
【符号の説明】

- 1 暗証番号入力部
- 2 暗証番号照合部
- 3 主制御部
- 4 指紋入力部
- 5 指紋照合部
- 6 指紋判別部
- 7 指紋記憶部
- 8 通報制御部
- 9 本発明の現金自動取引機
- 10 カード出入口部
- 11 通帳出入口部
- 12 従来の現金自動取引機

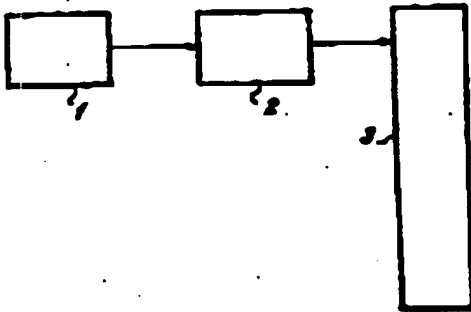
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

